



平成26年度こども海ごみ探偵団 調査結果のまとめ

川と海つながり共創プロジェクト 環境教育部会

1 実施内容

《保津川調査》

実施日：平成26年7月21日（月・祝）

場所：保津峡谷一帯（亀岡市保津大橋～京・右京区嵐山渡月橋）

調査地点：保津川右岸【通称）殿の漁場～通称）女湊の間】

参加者数：28組67名

ごみ回収量：土のう袋22袋 他大型ごみ

《友ヶ島調査》

実施予定日（8月2日）・予備日（8月9日）ともに台風による荒天のため中止

2 保津川調査の結果

◇ごみの分類

最も多かったごみは<発泡スチロール片(全体の43%)>であり、その他<硬質プラスチック片(4%)>や<食品包装・容器(10%)>等を合わせると、全体の69%がプラスチック(ビニール)製品であることがわかりました。

また、<ふた・キャップ(3%)><生活雑貨(2%)><おもちゃ(1%)><くつ・サンダル(1%)>の大半もプラスチック製品であることから、保津川に流れ着くごみのほとんどが、自然の力では分解できない石油由来の製品であることがわかります。（図1）

◇昨年度調査結果との比較

昨年度の調査結果（図2）と比較すると、今年の調査結果では<ふた・キャップ>や<たばこの吸殻>が多くみられます。これは、本年度は参加者の人数が昨年比べて多く（昨年度16組39人、本年度28組67人）、参加者の皆さんが小さなごみまで残さず清掃されたため、キャップや吸い殻など細かいごみにまで目が行き届いた結果であると思います。

このように、清掃活動を行うときには、できるだけ大勢の人数で行えば、細かなごみまでたくさん拾えるということがわかりました。

【裏面に続く】

◇海のごみとの比較

本年度は、台風の影響で残念ながら《友ヶ島調査》が中止となりました。

そこで、昨年度実施した《友ヶ島調査》の結果と、今年の保津川調査の結果を比べてみました。（図3）

すると、川や海のそれぞれの特徴を表すごみ（川：肥料等の袋、海：漁具 など）も少量見られたものの、川と海ではほとんどごみの内容に違いがないことがわかりました。

海岸漂着ごみの約70%は陸上起因のごみであるとされており^{※1}、川のごみと海のごみの内容に大きな差がないことから、川のごみを清掃することは、海ごみの削減に大きな効果があると考えられます。

※1 （財）環日本海環境教育センター「海辺の漂流物調査結果(データ集)」2007年度

◇参考資料

○海ごみサミットについて

亀岡市では、平成24年に「第10回海ごみサミット2012 亀岡保津川会議」が開催されました。

この会議は、世界的規模で問題となっている海洋漂着ごみについて、削減と発生抑制に向けた各地の取り組みや考え方を話し合う会議で、全国各地から川や海のごみの削減に取り組んでいる個人や団体の方が出席されました。

このサミットは、これまで海岸線を有する市町や島で開催していましたが、海のない地域では亀岡市が初めての開催でした。このサミットの成果を受けて、その後亀岡市では市民・企業・NPO・市・府・各種団体が「川と海つながり共創(みんなでつくろう)プロジェクト」を設立し、川の掃除をするだけでなく、川と海とのつながりや川から海にごみを流れ出さない仕組みづくりについても積極的に取り組んでおり、これは、内陸(海のない)地域としては、全国的にも珍しい取り組みです。

○ごみの流れる速さについて

保津川調査の事前学習でも説明がありましたが、平成24年に川のごみの流れる速さについて調べました。

嵐山・渡月橋(保津川調査のゴール)からGPS発信機を5個放流し、どれくらいの期間で海にたどり着くかを実験しました。

その結果、川ごみは普段の川の水が少ない時期には川辺の草むらや護岸に引っ掛かっていますが、ひとたび大雨が降り水位が上がると、早くて1日で大阪湾まで流れていくことがわかりました。うち1枚は大阪湾から瀬戸内海の明石大橋近辺まで流れています。（図4）

また、保津川にどのようにごみが溜まるかを調べるため、亀岡の保

津川本・支流に木製フロート（木を輪切りにしたもの）2,000枚を流す実験も行いました。

すると、流した2,000枚のうち、回収できたのはわずか56枚（約3%）で、嵐山渡月橋までの保津峡谷で33枚、京都市上桂で21枚、大阪市淀川河口付近で3枚、須磨海岸で1枚を回収しました。（図5）

これらの実験で、川で見つけたごみは、その時拾わないと明日には海のごみになる可能性があること、川に流れ出た全てのごみを回収することは極めて困難であることがわかりました。

3 みんなで考えてみよう

- 今回の調査で見つけたごみの中で、直接川や海に関係ない（川や海で使わないもの）ごみはありましたか？
- これらのごみ（川や海に関係のないごみ）は、どこからどのようにして保津川に流れ着いたのでしょうか？
- 皆さんの家から海までの水の流れる（水路→川→海）コースを考えてみましょう。もしかしたら皆さんの家の近くに落ちているごみが海ごみになっているかもしれません。
- 保津川はどこから流れてくるのでしょうか？また、保津川の周りにはどれくらいの方が住んでいるのでしょうか？
- 川のごみを減らす・発生しないようにするためには、誰が・何をすればよいでしょう。いろいろな立場の人を想像して考えてみてください。
- 川や海のごみを減らすために、自分でできることを考えてみましょう。

☆探偵団の次のミッション☆

今回の調査で見たこと知ったことを家族や友達に教えてあげてください。一人でも多くの仲間が川や海、私たちの住む亀岡の環境について真剣に考え、行動できるように、探偵の皆さんがリーダーとなって取組んで下さい。